

インドのナショナル・カリキュラム・フレームワークにおける「社会科」 ー日本の学習指導要領との比較の視点をふまえてー

びわこ学院大学 渡辺 雅幸

はじめに

本稿が対象とするインド共和国（以下インド）は、2023年に人口が14億人を超えて世界第1位となったことに加えて、GDPも日本に次ぐ世界第5位となるなど、グローバルサウスの一角として政治経済ともにその存在感がますます高まっている国の一つである。

一方で、さらなる発展と課題の解決のために期待されているのが学校教育であり、特に2020年代以降は矢継ぎ早に教育改革が進められている。たとえば、中央政府の教育の基本方針を示す「国家教育方針2020（National Education Policy 2020）」が30年以上ぶりに発表されたほか、それに基づいた「ナショナル・カリキュラム・フレームワーク2023（National Curriculum Framework for School Education 2023、以下NCF2023）」がこちらも約20年ぶりに改訂された（日本の学習指導要領に相当するが、教育については原則的に各州に権限があるため、NCF2023はあくまでも国全体の大枠としての位置づけであり、各州はこれに基づきながらも独自にカリキュラムを編成する）。

さて、2024年11月現在インドでは、モディ首相が主導するインド人民党（BJP）を中心とする与党連合が政権に就いているが、教育に関して近年話題の一つとなっているのが、インドの社会科学（Social Science、地歴・公民分野を扱う日本の「社会科」に相当する科目）、特にその歴史教育に関する部分である。たとえば、Covid-19の影響による学習負担の軽減を理由に、教科書からイスラーム王朝に関する記述が大幅に削減されるなど、いわゆるヒンドゥー至上主義的な教育改革が注目を集めている（湊、2024年、43頁）。

一方で、インドの歴史教育などに関しては日本でも一定の関心を集めているものの、社会科学（社会科）、特に新たに改訂されたNCF2023における社会科学の科目としての全体像についてはほとんど知られていない。

そこで本稿は、インドのNCF2023における「社会科学（社会科）」に関する内容を、日本の学習指導要領との比較の視点をふまえて簡単に整理することで、その特徴を明らかにすることを目的とする。

なお、今回は日本の中等教育に相当するミドル・ステージ（Middle Stage、第6学年から第8学年までの3年間）の内容を整理する。

1. NCF2023における「社会科学」の概要

次に本節では、NCF2023における「社会科学」についてその概要をまとめる。

NCF2023の「パートB：科目/領域」は、NCF2023全体のおよそ6割を占める主要部分であるが、

「言語教育」や「数学教育」などと並んで、「5. 社会科学教育 (5. Social Science Education)」が設けられている。その各節の項目を列挙すると、「5.1 目的 (Aims)」「5.2 知識の本質 (Nature of Knowledge)」「5.3 現在の課題 (Current Challenges)」「5.4 学習水準 (Learning Standards)」「5.5 内容 (Content)」「5.6 教授法 (Pedagogy)」「5.7 評価 (Assessment)」となっている。そこで以下では、各節ごとの概要をまとめる。

(1) 「目的」

「社会科学」の目的は、表1の通りとなっている。

表1. 「社会科学」の目的

学校教育における社会科学の目的は、以下のように要約できる。 a. 歴史的、地理的、社会的、経済的、政治的な要因の相互作用を通じて、どのように社会が機能しているのかに関する当該科目の知識と理解を深める。これは、以下を通じて可能となる。 i. 人類の文明の継続や変化、その原因、また現代の生活への影響の理解。 ii. 自然と人類の相互作用、こうした相互作用が起こる分布様式、その人類の生活への影響の理解。 iii. 人々の多様性や、社会の中で異なる社会や宗教、文化における実践の気づきと理解。 iv. 様々な社会的、政治的、経済的な習慣やその起源、機能や、時間に伴う変化への気づき。 b. 社会科学と関係のある調査方法の理解と見識を深める、社会が直面する重要な問題や課題に関わる生徒の技能を高める。これらは特に以下のようなものと考えられる。 i. エビデンスの情報源を明らかにする、エビデンスを解釈する、複数の情報源やエビデンスで確認する、一貫した物語を作り出す技能。 ii. 分布様式を認識する、地図を解読する、相互に接続した様々な概念やプロセスを解釈したり分析したりする技能。 iii. 情報に基づいた意見を形成したり、論理的意思決定を行ったり、問題解決型の態度を志向するための、創造的で分析的な思考の技能。 iv. さまざまな歴史的、地理的、社会政治的な課題に関するデータや情報を収集し、整理し、分析し、説明し、発表する技能。 v. 科学的な気質を育んだり、社会の現代的な関心事に意味のある提案をしたりできるために、根拠のない考えや、先入観、固定観念、憶測を疑う技能。 c. 倫理的な価値や、人間らしい価値、憲法に関わる価値を育む。 DNEP2019が強調するように、「自由への民主主義的な展望と献身；公平性、正義、公正性；多様性や複数性、包摂を受け入れること；人間性や兄弟愛；社会的な責任や献身の精神；誠実さや正直さの倫理；科学的な気質や合理的で公共的な対話への献身；平和；憲法を手段とした社会的な活動；国家の統一と品位、国家として絶えず改善するという前向きな精神をもったインドにおける真の根強さと誇り」を育むこと。

出典：NCF2023, pp.253-254 をもとに筆者作成。

(2) 「知識の本質」

5.2 は「知識の本質」という節が設けられており、「社会科学」の「知識の本質」として、「a. 科学的根拠に基づき、経験的で、検証可能である」「b. 社会科学は人間社会に関する学である」「c. 社会科学は学際的なアプローチを必要とする」「d. 社会科学の価値は文脈によって変化する」の4つが挙げられている (p.255)。

(3) 「現在の課題」

5.3 では、「社会科学」が科目として抱える「現在の課題」として、「a. 主に事実の暗記」「b. 社会科学が、歴史、地理、政治、経済として厳格に区別されている」「c. 生徒の実生活とほとんど関係ない、も

しくは無関係である」「d. 教科書の内容が、探求や調査から生じる事実に基づいていない」の4つが挙げられている (p.256)。

(4) 「学習水準」

5.4 では、前節までの「目的」「知識の本質」「現在の課題」をふまえながら、「社会科学」の「学習水準」として、「カリキュラムの目標 (Curriculum Goals)」と「コンピテンシー (Competencies)」 「内容 (Content)」 「学習成果 (Learning Outcomes)」の4点が整理されている。

「内容」を除くそれぞれについて、まず「カリキュラムの目標」とは、「カリキュラム開発や実施に導く記述 (statements)」であるとされている (p.59)。また「コンピテンシー」とは、「観察可能で体系的に評価できる学習成果 (learning achievements)」とされている (p.59)。さらに「学習成果」とは、コンピテンシーをより観察可能なものとし、「授業を計画したり、評価を設計したり、教育・学習を改良したり、科目における生徒の進捗状況を追跡したりするために、教師にとってガイドの役割を果たしてくれる」ものとされている (p.257)。

ミドル・ステージにおける「社会科学」のカリキュラムの目標とコンピテンシー、内容、学習成果については、表2から表4の通りとなっている。

表2. 「社会科学」のカリキュラムの目標 (CG) とコンピテンシー (C) (一部抜粋)

CG-1 人間の生活の異なった観点に関連した情報源を理解、解釈し、社会的現実の意味のある解釈をする。	C-1.1 課題/慣習/実践/思想/出来事の歴史・地理・社会政治的な観点を理解するために、(第一、二の) 複数の情報源を理解する。 C-1.2 社会政治的、文化的、経済的、もしくは地理的現象を示している表、図、図形、地図を用いたデータを理解し、分析する。
CG-2 生徒の背景や少数の歴史的な挿話などからいくつかの特定の例を通して、文明の継続と変化の過程を究明する。	C-2-1 家族/周囲で、また暮らし、科学技術、移住、資源の利用可能性、生活様式、政治情勢に関して起こった変化を分析するための口述や記述の情報源を集める。 C-2-2 世界史において主な変化を示す主要語句を説明する。 C-2-3 社会の大きな変化にもかかわらず、人間社会における思想、関係、実践、活動が維持されている/継続的に普及している理由を調べる。
CG-3 異なる社会的・歴史的な出来事もしくは挿話の原因と結果との間の関係を描き出し、そうしたことが人間の生活への全体的影響とを結びつける。	C-3-1 自らの地域の社会集団やコミュニティとの間の争いの背景にある原因や、それらの社会への影響を明らかにする。 C-3.2 遊牧生活から初期の文明(食習慣や商業的農業の出現、不殺生や平等のような人々の信条や考え、人間社会に顕著な影響を及ぼした主要な戦争に関連する出来事)に至るまでの人間の生活において起こってきたさまざまな変化を説明し、分析する。
CG-4 (a)インドの輝かしい過去: その文化的多様性、遺産、伝統、文学、芸術、哲学、医学や、(b)インドの地理的な多様性を理解することによって、インド人 (Bhartiya) であることの重要性を正しく理解する。	C-4.1 さまざまな政治的なイデオロギーや方言、言語、伝統的な習慣、宗教的な考え、貿易、商業、アーユルヴェーダ、ヨガなどのインドの文化的な多様性を説明し、支持する。 C-4.2 西の半乾燥地帯から北東の豪雨地域まで、南の長い沿岸地域から北の雪で覆われた山まで、インドの地形の地形学的な多様性や豊かな生物多様性を発見する。
CG-5 (ローカルからグローバルまで) 資源の空間分布、それらの保護、自然現象と人間の生活との間の相互関係を理解する。	C-5.1 雨、天気、気候、土壌形成、川の流れ、浸食のような重要な自然現象や、それが空間的にどのように分布しているのかを説明する。 C-5.2 水や農業、原材料、サービスの資源の配分や、(地理的・社会的両面において) 異なる社会階層出身の人々への資源の利用の格差について問う。 C-5.3 社会で起きている保護活動への試みを説明し、その重要性を主張する。 C-5.4 (地域、地方、国、グローバルな背景において) 異なる地形、資源の利用可能性、天候の異なる生活様式が存在を相互に関連づける。
...	...

出典: NCF2023, pp.257-258 をもとに筆者作成。

表 3. 「社会科学」の内容

	第6学年	第7学年	第8学年
	ユニット1. 自分のまち		
自分の地域 20%	第1章 自分の家族を知る 第2章 自分の近隣を知る 第3章 自分の近隣の地図を作る	第1章 著名な場所－歴史を調査し、構築する 第2章 地域性：これまでと今 第3章 地方行政：パンチャーヤト（地方の生徒向き）/ナガル・パリカ（都市部の生徒向き）	第1章 自分の地域の経済活動1 第2章 地域の市場を理解する 第3章 ブロックと地区：パリシャッド（地方議会）
自分の地方 20% （ラジャスタン州を例に）	ユニット2. 自分の地方を知る		
	第4章 地理的地域と生活、ラジャスタン州を例に	第4章 歴史的に意味のある場所 第5章 人々の生活と文化	第4章 州におけるインドの国民運動 第5章 鉱物資源と産業 第6章 州の生活様式 第7章 政府と市民
	ユニット3. 自分の国		
インド 30%	第5章 地球の自転、緯度、軽度 第6章 インド亜大陸の概要 第7章 農業の出現とその社会への影響 第8章 新思想の出現	第6章 インド亜大陸の気候、雨（モンスーン） 第7章 農業の様式 第8章 中世社会 第9章 社会宗教運動	第8章 インド：天然資源と人的資源の分布 第9章 インドにおける植民地支配 第10章 ナショナリズムによるインドの国民運動の勃興 第11章 インド憲法
世界 20%	ユニット4. 世界		
	第9章 日本	第10章 南アフリカ	第12章 アメリカ合衆国

出典：NCF2023, pp.265-268 をもとに筆者作成。

表 4. 「社会科学」の学習成果の一例（一部抜粋）

C-1.1: 課題/慣習/実践/思想/出来事の歴史・地理・社会政治的な観点を理解するために、（第一、二の）複数の情報源を理解する。			
第6学年	第7学年	第8学年	
家族から家族史や親戚との関係に関する情報を集め、教師の助けを借りながら授業で議論する。	地域の史跡を調査する－これらの場所の歴史を観察し、記録する。	地域の異なるコミュニティの生活やさまざまな経済状況を列挙する。	
近隣の人々の職業や歴史的に重要な場所、平原、丘陵、渓谷、台地、海岸のような地理的特徴を調査する。	コミュニティの高齢者と会話したり、村/街の歴史的な場所、たとえば寺院、モスク、井戸、バヴァリ（Bavari）、宮殿/砦を訪れたり、複数の情報源を用いることで、地域の歴史や地理的な特徴についての物語を創作する。	地域の植民地支配や国民運動に関する情報源を調査する。	
地域における異なる種類の情報源を見分け、地域の歴史の復元に重要なことを説明する。	社会構造や国の政策、アクバルやクリシュナデーヴァラーヤからの経済活動に関係した情報を比較する。	自分の地域の鉱物や産業、農業の分布について知るために、複数の情報源を照合する。	
...	...	...	

出典：NCF2023, p.274 をもとに筆者作成。

(5) 「内容」

5.5 では生徒が学習する「内容」を選択する際に考慮されなければならない原則として、「a. 内容はさ

まざまな証拠と物語に基づいていなければならない」「b. 内容は学際的でなければならない」「c. 内容はコア科目の能力を伸ばさなければならない」「d. 概念は単純なものから複雑なものへと構築される」「e. 内容はローカルなものからグローバルなものへと向かう」「f. 内容は人々のリアルで多様な経験を含む」の6つが挙げられている (pp.276-277)。

(6) 「教授法」

5.6 では社会科学の授業を計画する際に留意すべき「教授法」の配慮として、「a. 教室での交流によって、生徒が社会科学の方法に関わることを手助けすべきである」「b. 教室の授業によって、規範的な事柄に気づいたり理解したりすべきである」「c. 学際的な思考が推奨されたり支持されたりすべきである」「d. 社会科学の教室は、共感と思いやりをもって、アイデアを競ったりディベートをしたり議論をしたりする場所であるべきである」「e. 社会科学における事実や概念は、生徒の背景や経験と関連させるべきである」「f. 社会科学の概念は、十分な深さと厳密さをもって明確にされる必要がある」「g. さまざまな社会政治的、環境的な課題と関わる機会が保障されるべきである」「h. 問題解決型学習 (PBL) 活動などのようなオーセンティックなタスク/パフォーマンス・ベースのタスクが取り入れられるべきである」の8つが挙げられている。

そして、これらの配慮に従って授業を設計するために、教師が展開できる「教授法」に関わる戦略として、「a. 問うこと」「b. 問題解決学習」「c. 対話、議論、ディベート」「d. ロールプレイやシミュレーション」「e. 社会奉仕活動や野外巡検」「f. 反省的エッセイ」「g. プロジェクト・ワーク」「h. モデルや人工物を作ったりするプロジェクトのための特定の機会」の8つが挙げられている。

(7) 「評価」

5.7 では、「評価」について述べられている。それぞれ何をどのように評価するのかなどに合わせて、選択式の解答である「多肢選択試験 (MCQ)」や記述式の解答である「小論文形式」のほか、パフォーマンス評価 (Performance based assessments) やルーブリックを導入するなど、さまざまな評価法が挙げられている (p.288)。

2. 考察

本節では、前節のインドの NCF2023 における「社会科学 (社会科)」に関する内容を、日本の学習指導要領との比較の視点をふまえて簡単に整理することで、その特徴を明らかにすることを目的とする。NCF2023 における「社会科学」の特徴は、少なくとも3つ挙げることができる。と考える。

一つ目は、「コンピテンシー」や「学習成果」「PBL」など新たな概念が積極的に導入されている点である。「現在の課題」の節において、インドでは受験競争などの影響もあり「a. 主に事実の暗記」を中心とした学習となってしまうことが課題として挙げられていたが、カリキュラムの目標やコンピテンシー、学習成果など新たな概念などだけでなく、それに合わせた新たな教授法や評価の導入を目指した教育改革が進められている。一方で、たとえば現在の日本の学習指導要領でも「コンピテンシー」に基づく教育改革が目指されているが、その際に使用されるのは主に「資質・能力」などの意味であり、「学習成果」の意味合いが強いインドの概念とは違う点には注意が必要である。

二つ目は、社会科学内の分野間（歴史、地理、政治、経済）の横断的な視点が重視されている点である。「現在の課題」の節においても「b. 社会科学が、歴史、地理、政治、経済として厳格に区別されている」ことが課題として挙げられていた。一方で日本の学習指導要領でも「指導計画の作成上の配慮事項」として、「カリキュラム・マネジメントの側面からも、社会科の各分野の教育内容を、分野間のみならず教科等横断的な視点で、組織的に配列するためにも、単元という形で内容や時間の一定のまとまりを単位として、組み立てていくことが大切である」（170 頁）と述べられているが、表 3 を見てもわかる通り、地歴・公民分野と分けず、社会科学内の分野間の横断的な視点が重視されていることが確認できる。

三つ目は、社会科学の内容として生徒に身近なものを重視している点である。「現在の課題」の節において「c. 生徒の実生活とほとんど関係ない、もしくは無関係である」ことが課題として挙げられていたが、たとえば表 3 の「自分の地域」の部分を見ると、生徒の住む地域だけでなく家族について学ぶなど、生徒の実生活に関連ある内容を重視していることがわかる。ただし、こうした内容や配慮については、日本の社会科の学習指導要領の内容との比較でいえば、中等教育というよりは初等教育のものに近いことがわかる。

おわりに

本稿は、日本の学習指導要領との比較の視点をふまえて、インドの NCF2023 における「社会科」の特徴を明らかにすることを目的とした。検討の結果、NCF2023 における「社会科学」の特徴は、少なくとも①「コンピテンシー」や「学習成果」「PBL」など新たな概念が積極的に導入されている点、②社会科学内の分野間（歴史、地理、政治、経済）の横断的な視点が重視されている点、③社会科学の内容として生徒に身近なものを重視している点を挙げることができた。インドの教育については、その歴史教育にも関心が集まっているが、その一方で、新たな概念や内容、方法を取り入れ、現代的なカリキュラムに向けた教育改革も積極的に取り組まれている。

本稿では紙幅の都合上、NCF2023 における「社会科学」の内容を簡単に整理したのみで、たとえば日印の「コンピテンシー」の概念の違いや、NCF2023 全体の特徴、それに基づいた教科書や学校現場での様子などについてはまったく触れることができなかったため、引き続き NCF2023 に関連した動向に注目を続けていきたい。

参考文献・資料

湊一樹『「モディ化」するインドー大国幻想が生み出した権威主義』中央公論新社、2024 年、43 頁。

文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』

(https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_003.pdf、2024 年 11 月 22 日最終閲覧)

National Steering Committee for National Curriculum Frameworks, National Curriculum Framework for School Education 2023

(https://www.education.gov.in/sites/upload_files/mhrd/files/infocus_slider/NCF-School-Education-Pre-Draft.pdf、2024 年 11 月 22 日最終閲覧)

The Characteristics of "Social Sciences" in India's National Curriculum Framework

– A Comparative Perspective with Japan's Curriculum Guidelines –

Masayuki WATANABE

India, which surpassed a population of 1.4 billion in 2023 to become the world's most populous country, has also become the fifth-largest economy by GDP globally, after Japan. As a prominent nation in the Global South, India's political and economic influence continues to grow. On the other hand, education is seen as key to addressing both its developmental challenges and aspirations for further progress. In particular, since the 2020s, a series of rapid educational reforms have been underway. For example, the "National Education Policy 2020" was introduced by the central government to outline its educational vision, and based on this, the "National Curriculum Framework for School Education 2023" (NCF2023) has also been revised.

This paper aims to clarify the characteristics of "Social Sciences" in India's National Curriculum Framework 2023, with a focus on a comparison with Japan's national curriculum guidelines. As a result of the analysis, the following three key features of "Social Sciences" in NCF 2023 were identified: 1) the introduction of new concepts such as "competencies," "learning outcomes," and "PBL" (Project-Based Learning); 2) a cross-disciplinary perspective across the fields within social sciences (history, geography, politics, and economics); and 3) a focus on content that is relevant and familiar to students.